




第三十三回『最低。』と最高。のあいだ

考え



どうしても今、
切実に書きたい、から

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

地震、自分が被害ないとこんな感じかって気がしてる。まあ、できることをやりましょう。

紗倉まな『最低。』はとにかく絶対に読みたい小説だったし、やっと逢えたねってずっといろいろ考えてる。

とりあえず予想通りすっごくよかった。今後AV業界をテーマに小説書くなら、『最低。』は超えなければならないハードルとして最高。の作品だね。

あと、性に関する社会的議論は、もっと真剣にオープンに、『最低。』と最高。のあいだで正面から語られるようにいづれなると思う。

そもそも遺伝子の乗り物である人間——という動物——にとって性欲は、種を残し社会を繁栄させ続けるために不可欠だ。だからこそ、これだけ性風俗産業も発展し、人間の経済活動と性欲が深く結びついてるワケだし。

今ちょうど「不倫+障害者と性」の話題が世間で盛り上がったから、大新聞やビジネスニュースが大真面目で性風俗について語る時代が来るんじゃないかって思う。

このままいけば21世紀の終わり頃には、障害者の性欲を処理する仕事は、一般的な介護職と同じように扱われ、北欧みたいにより差別なく受け入れられてるだろうと俺は思う。

更にそうなると、イケメンに障害がある男性——イケメン障害者——の性欲を処理する仕事、つまり風俗嬢とかに対する蔑みとかも、流れとしてだいぶ軽減されて来るだろう。

俺は思うんだけど、少なくとも、性欲を処理するための物理的行為と、ソレに従事する風俗嬢を蔑んで優越感に浸る心理的行為は本来、全く別だ。なのに今、風俗嬢に金を払って性欲を処理してもらいながら、更に精神面でも優越感に浸る快樂を得たいがために風俗嬢を罵倒する客もいる。それって実は別料金じゃないのか？

ただ性欲と恋愛と感情移入は近接してぐちゃぐちゃにもつれるから、なかなかそこらへん分離できず面倒なんだろうけど。

それでもたぶん21世紀の終わり頃には、性欲の処理はあまり蔑視されなくなるかわりに、「お客からの罵倒に特化したSM」みたいな仕事ももっと増えて細分化されてるんじゃないかな。

ところで、芸人の芸人による芸人のための『火花』がアレを受賞してる以上、AV女優の、による、のための本作がアレを受賞しない理由もなくなったね。

特に『火花』では風俗嬢を中途半端に天使っぽく綺麗に描きすぎて、俺は腑に落ちなかった。対して本作はAV女優の内面や背景について深く静かに内省しててその分、確実に文学してると思う。経歴で言っても山田詠美がアソコにいるワケだし、文壇にももう一人分くらいの居場所はあって然るべきだ。

ちなみに偶然にもこのサイトで俺が面白いと思った作品が今のところ3連続で「チャットレディと性」に関連してた。

更に今、俺が最も興味を持っているテーマが「女性の貧困と性風俗」だ。

今までにも何回か書いたけど、この国の金持ち権力者は、この国がゆるやかに衰退すると予測してるから、自分たちが今後も金持ちであるように、貧富の差を拡大させて利権を独占し続けようとしてると、俺は思ってる。

一億総中流社会なんて、金持ちにとっては自分の富が減るだけの愚策だ。だから少子化対策やら年金対策やらモロモロ、真剣にやる気なんてない。金持ちが損するだけだから。人間だもの。

その流れで考えると、このまま貧富の差をどんどん拡大させれば、金持ち権力者はより安い金で、よりいい女を抱けるからむしろ好都合、ってゲスい考えも浮かんでくる。その上、自撮り画像を簡単にネット投稿する若い女性も増えてるし、性の低年齢化を含めて、性のハードルが『最低。』レベルって話もある。

ただもちろん、昔も夜這いやらあったし、世界にはフリーセックスの国だってたぶんあるワケだし、パンダだって交尾ビデオ観せられて学習して発情するって話だし、時代と人間と性の変遷は簡単に一括りじゃ語れないだろうから、ここはこれ以上踏み込まない。

それより気になったのは、実は本作では貧困はさほど重要なテーマではない点。むしろ、昔は貧困と性風俗がセットだったけど、今はそうじゃないってニュアンスで語られてる点だ。

たぶん著者自身が、貧困を理由にAV出演してるワケじゃないからだろう。それに貧困をAV出演の理由にしないことで、単なる不幸な貧乏話じゃなくて、彼女らの内面描写をより多様にしたかったんだと思う。

ただ俺は、今も昔も、AVに出演する最も大きな理由の一つはやっぱりお金だと思う。更にその金と性欲と恋愛感情のもつれでびちゃびちゃになった部分にこそ、文学の神髄があるような気もするんだよね。

『最低。』に収録されてる4つの短編のうち、最後のが一番好きなんだけど、主人公がAV女優じゃない高校生で、描かれないけど彼女のこれからの生き方にこそ、著者自身の希望や未来が託されてるんじゃないかなって思う。

ああ、ちょっと今回うまくまとまんないんだよね。

ってのも個人的な性の対象として言うと、実はあんまり好みな女優じゃない、紗倉まな。相手の目の色をちょっと伺ってるように俺には映るから。

ただ作家としてはかなり好みだった。だからもういいんじゃないAV辞めても、って思う。そろそろ潮時じゃん？

こっから言い訳だけど、そういう性欲とか好みとか感情移入のずぶ濡れが混沌として乾かないからこそウマシカだって、今回開き直っていい？ 村上春樹はセックスばっかだって言う人いるけど、当たり前だよ文学なんだから、芸術がセックス語って何が悪いって開き直っていい？ 関係ないけど。

村上春樹つながりで最後に書くんだけど、『ノルウェイの森』で「労働（苦労）と努力は別物」ってニュアンスの話があったけど。

考えたんだが、労働と努力は確かに別だけど、どちらも大事だなんて思う。努力が上で、労働が下ってことじゃない。

つまり、RPGで言うところの経験値と物語の関係で例えるとわかりやすい。

経験値を上げれば、よりレベルが上がり、強い敵も一撃で倒せるようになる。ただそれだけでは、冒険は進まない。

冒険を進ませるためには、レベル上げ以外に、町の人話を聞き、依頼を引き受け、様々な場所へ訪れ、謎を解いていく必要がある。

経験値を上げることは、作業であり、苦労であり、労働だと定義する。

一方、謎を解くことは、思考であり、勉強であり、努力だと定義する。

この二つがかみ合わなければ、エンディングは来ないし、姫も助けられない。人生というRPGを思い通り進めるためには、労働と努力がタイヤとエンジンの役割を果たすはずだ。

さて、今回はこんな感じ。

洒落じゃなく過去『最低。』のまとめりだったかも。でもまあそもそもウマシカには上も下もないし、職業に貴賤もないし、天は人の上にアレもないしね。どうかな？



さて、今回ちょっとあえて、一点指摘してみたい。ウマシカからの愛のムチ？ あ、AV女優だけに？ 愛のローソク的な？

P128

「いまだ夫への愛情はわずかに、ぽろりと零れ落ちてしまいそうなほどぎりぎりのところで、表面張力のように保たれたままだ。それも、ドロリとした鉛のような無様な愛で。」

ここの文章がちょっと、俺にはイメージしづらかった。

というのも表面張力って俺の場合、ジョジョの第3部、ダニエル・J・ダービーとのイカサマ合戦しか思い出せないせいなんだけど。人生で初めて表面張力が出て来たマンガだから。あのなみなみと酒が注がれたコップに、零れないようにそっとコインを入れるヤツね。

俺はこの表現で、あのコップに鉛がなみなみと注がれてる図をイメージした。だから一滴愛情が零れても、コップにはまだなみなみと鉛色の愛情が残ってるよね。すると「夫への愛情はわずかに」ってイメージはしづらい。

そこで、俺だったらなんだけど。

「いまだ夫への愛情はわずかに残ってはいるものの、絞って絞って絞りつくされたボロ雑巾がギリギリねじられたまま、滴り落ちるのを我慢している最後の一滴みたいだ。それも、拭き取った汚れを吸ったような濁った愛で。」

これくらいなら無理なさそうかな。愛情のない夫婦ってボロ雑巾みたいだし、汚いケンカもいっぱいして、仕方なくその後始末を拭き取ってまた使うしかないって感じで。

あと不思議な余韻残す感じで文章に読点がいっぱいあるんだけど、俺はこれずっと死ぬまでやめないでほしいって、思、う。←「紗倉まな®」って商標が付いて、いつか味になると思う、から。

考えるウマシカ～第三十三回 『最低。』と最高。のあいだ～

<http://p.booklog.jp/book/106152>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/106152>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/106152>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ